

平成29年度 長野市地域包括支援センター運営協議会 報告書

日 時	平成29年11月9日(木) 午後1時30分～3時30分
会 場	長野市役所第一庁舎7階 第2委員会室
出席者	委員13人(欠席 水内委員、吉澤委員) 事務局9人 地域包括支援センター代表2人
次 第	<p>1 開 会 介護保険課 戸谷補佐</p> <p>2 あいさつ 小山会長 竹内保健福祉部長</p> <p>3 協議事項</p> <p>(1)「あんしんいきいきプラン21(第8次長野市高齢者福祉計画・第7期長野市介護保険事業計画)」に記載する地域包括支援センター運営に関する事業内容について</p> <p>説明：介護保険課 戸谷補佐 (資料1-1、1-2、1-3)</p> <p>(2) 直営包括支援センターの体制見直しについて</p> <p>説明：南部地域包括支援センター 西澤所長 (資料2)</p> <p>(3) 介護予防支援業務の指定居宅介護支援事業所への委託について</p> <p>説明：介護保険課 戸谷補佐 (資料3)</p> <p>(4) その他</p> <p>5 閉 会 介護保険課 戸谷補佐</p>
質 疑 応 答 要 旨	
委 員	<p>(1)「あんしんいきいきプラン21(第8次長野市高齢者福祉計画・第7期長野市介護保険事業計画)」に記載する地域包括支援センター運営に関する事業内容について(資料1-1)</p> <p>2ページ目の地域包括支援センターの職員の定着状況の調査集計で1年から3年までの職員が合わせて75%、出入りが激しいということだが、その理由は何か。多忙等か。</p>
事 務 局	<p>制度改正に伴って包括の業務が多忙になってきたということもあるが、それに加えて、家庭を抱えていたりするとより良い給料のところへ転職をされる職員もいるようだ。勤務の内容とそれに見合った給料というところで転職される職員もいると聞いてはいる。</p>
委 員	<p>介護施設をやっているが1年まで続く方もいれば続かない方もいて、思ったところと違うという方もいると思う。パーセンテージ的にかなり割合を占めている若い世代だが、ある程度地域の中で担っていく中堅以上の方々がいないと若い人たちもなかなか育っていかないのかなという現状。私も施設をやりながら感じているところで、1番の要の部分になるから、出来るだけ継続して安定して職務が出来ればと感じている。継続出来るような地域に貢献出来るような施策を考えていってほしい。</p>

委員	<p>アンケートで現在の業務量は大変多いや多いという回答が全施設であがっているが、委託料について、上げてほしいという回答あるが、国の基準もあると思うが、業務量が多い中で委託料を上げることで人数等少しは変わるのかどうかとか、またこの計画の中に反映されていくのかも考えていただければありがたい。国の制度で変えられない部分もあると思うが。そういう要望はあげてほしい。</p>
事務局	<p>委託料については昨年28年度に1名分を増額しており、一律500万円を増額している。それに対する人材確保となるとすべてのセンターで増員が叶ったというわけではなく、やはり人材の確保が課題となってくるかなど。金額的なところで言うと、昨年度調査があり中核市で回答があった33都市ほどの中では一人当たりの人件費は500万円を超えているのは9つほどで、600万円が1都市あって、500万円を超えているのは合わせて10都市とあり、それからすると安い方ではないが、業務量からするともう少しという要望が出てきているのかなど。これに対してどんどん上げられれば良いが、国からの交付金も上限額が設定されておりどこまでも上げていくことは出来ない。制度改正の度に包括の業務が増えていくという状況の中でこのような結果になっていると思うが、委託料のあり方も今後大きな検討材料になると思う。</p>
会長	<p>3年未満が多いということについては、包括を増やした時、この3年間に増やしたということと、増員をかけているというところもあり、それがだいぶ影響しているかなどいう気はする。切実な意見がこのアンケートの中に出ていると思う。特に加算についての要望が多く、仕事を多くやった分についてはここを認めてほしいとか、人口割について多くの人たちを対象としているところはさらに加算を要求しているということがうかがわれる。これについてもまた検討お願いしたい。お金がないからこれで我慢しなさいと出されても現場はやれなくなって職員の成長もないものだから、出来るだけしっかりやってほしい。</p>
委員	<p>(1)「あんしんいきいきプラン21（第8次長野市高齢者福祉計画・第7期長野市介護保険事業計画）」に記載する地域包括支援センター運営に関する事業内容について（資料1-2、1-3）</p>
事務局	<p>7ページの132-9今後の方針について。市社会福祉協議会の「地域たすけあい事業」と連携しながら、自発的な支え合い活動が創出されるよう勧めていきますとあるが、記載の内容が次の8ページの132-10今後の方針と連携して書いた方が合うのかなどと思う。それに付随して今の8ページの市社協のサロン事業と連携しとあるが、サロン事業とはどれを指しているのか。各地区だと住自協がやっていたりするのでそうしておいていただくとありがたい。</p>
事務局	<p>別途検討させていただく。</p>

委員	<p>25ページ。役割のエのところ生活支援コーディネーター（地域福祉ワーカー）との連携とあるが、10ページだとどちらかというと地域福祉ワーカーが主体となって、そこにコーディネーターがつくとなっているので、書き方を合わせたほうが良いのでは。25ページに書くとしたら地域福祉ワーカー（生活支援コーディネーター）など。</p>
委員	<p>鬼無里だが、地域包括の仕事で直接の説明ではなかったが1ページのお達者な地域づくりの事業、これが私の地域では見えにくい面なので、どのようなものなのか教えてほしい。3ページの介護予防教室、自分たちで元気でやっていけるような、自立した予防活動になれば響いてくるのではと思う。なお、生きがいデイサービスがなくなるということで、鬼無里ではふれあいサロンを開催していただいている、非常に地域の人たちが元気で通ってきているので、非常に感謝しているしありがたいが、このあたりが見えにくいのでどう活動していったら良いか、自立していくためにこうやっていけば良いというアドバイスをいただけたらありがたいかなと。</p>
事務局	<p>お達者なまちづくりと介護予防教室のことでしょうか。介護予防教室というのは包括支援センター主体でやっていただいているもので、お達者なまちづくりというのは任意のグループからご要望いただき、介護保険課に所属するリハビリの専門職が行って体操などを指導するというもので、別の事業である。</p>
委員	<p>地域でリーダーになるような人たちの高齢化率が高いが、元気で暮らしていくためにアドバイスいただけたらと。</p>
事務局	<p>生活支援体制整備等、地区との接点増やしていく。そういったところで介護予防の取り組みなど話していけたらと。</p>
委員	<p>25ページ。包括支援センターの日常生活圏域として65歳以上の人口が3000人から6000人を目安に1センターを置くと書いてあったが、高齢者というのは65歳で良いのか。70歳とか、場合によっては後期高齢者以上を高齢者としてこれから考えていった方が良いのではないかと。少子高齢化の時代で、高齢者を65歳よりもう少しあげた段階で考えていくべき時期がきたのではないかとということをひとつ発言させていただく。これからの課題として。</p>
<p style="text-align: center;">(2) 直営包括支援センターの体制見直しについて</p>	
事務局	<p>補足だが基本的には南部という看板は下ろすが、今までの機能的な部分、窓口や委託包括の後方支援、ケアマネの支援は引き続き考えている。一番違うのは基幹型である在宅医療介護連携推進事業、認知症総合支援事業、生活支援体制整備事業等このあたりは本庁内にある部署で一括してやっていきたいと考えている。</p>
会長	<p>一番心配されていたのは利便性が悪くなってしまうことや、後方支援が手薄になるの</p>

	<p>ではないかなど疑問があったが、中部に集約することによって地域ケア会議の中身やそれをふまえての支援のあり方もまた変わってくると思うし、職員体制も集まりにくくなっている現状の中でそういった意味での効率化、なおかつ仕事のレベルアップということを考えると1か所に集まっていたらそこで必要な時に必要な職員が出ていくということは良いなと感じた。</p> <p>(3) 介護予防支援業務の指定居宅介護支援事業所への委託について</p> <p>事務局 こちらについては毎回協議会でお諮りしており、次第にも載せさせていただいたが、今回はお諮りする案件がなしということでご報告させていただきます。</p> <p>(4) その他</p> <p>事務局 第3回目の会議だが、年明けて2月頃開催したいと考えている。日程が決まり次第ご案内申し上げる。</p> <p>会 長 では閉会の言葉を。</p> <p>事務局 以上で議事をすべて終了する。</p>
--	---